

春寒が次第にゆるみ、日差しが春のおとずれを告げる頃となりました。梅の花もほころびはじめ、風が甘い香りが運んでくれます。日々暖かくなりますが、油断して風邪などをお召しにならないようにお気をつけくださいね！

健やかな成長を願って・・・

今年も2月11日（木・祝）より「甲州市えんざん桃源郷ひな飾りと桃の花まつり」が始まりました。ひな飾りには子どもの健やかな成長と幸せを願う祈りが込められています。そこで今月の上条報告では、安産と子育てを祈願する木食白道による「お子安さん」を紹介していきます。

木食白道（塩山上萩原上原 出身）

白道は、米や豆などの五穀（穀物）を絶って、水に溶いたそば粉や本の実・草などを食料として修行する木食戒という厳しい戒律（規則）を守りながら、仏像を彫り、日本各地を回って修行したお坊さんです。白道の彫る仏像は形式にとらわれず、自由でおおらかなもので、ひたむきな信仰を表現しています。白道が彫った仏像の数は千体といわれていますが、市内には40体近くが確認されています。



一木百観音菩薩（市指定有形文化財）上条組 観音堂

白道の作品の特徴である「微笑み」をたたえ、観世音菩薩を中心に、小菩薩が背面まで細かく刻まれています。高さが2・2メートル（七尺五寸）もあり、白道の作品の中でも大きな像です！



赤尾のお子安さん

赤尾子安地藏（市指定有形文化財）塩山赤尾982付近

赤尾の子安地藏は、安永10年（1781）8月に上条集落の一木百観音菩薩などと共に制作されました。造形は上条集落の一木百観音菩薩よりも単純化されています。かつては像の背の内割に木食仏2体が安置されていましたが、現在は手前に安置されています。

この像は仲泉寺尊像ですが、仲泉寺が涌泉寺に統合されたため、現在は涌泉寺が管理しています。安置されている子安堂は、通常は鍵で施錠がされていますが、格子越しで見学することができます！

お近くにお越しの際には、ぜひご覧ください♪

コラム 一ひな祭りのはじまりについて

「ひな祭り」の起源説は複数ありますが、一般的には中国から伝わった「五節句」という行事のひとつ「上巳（じょうし）の節句」といわれています。この日は古代中国では忌日（いみび）とされ、そのけがれを祓うため水辺で体を清め、厄払いが行われていたそうです。それが平安期頃に日本に伝わり、土や紙などで作った人形で自分の体を撫でて穢れを移し川に流すことで邪気祓いをする行事として広がり、現在も「流し雛」として残っています。「上巳」が広まる頃、平安時代の貴族の子どもをあいだで「雛あそび」と呼ばれる人形遊びが流行していました。この人形遊びと「上巳」が結びつき今の「ひな祭り」の原型になったと考えられています。

やがて時代とともにお雛様は絢爛豪華なものへと変化しましたが、いつの時代も変わらぬ「子どもの健やかな成長と幸せを願う」心からの祈りが込められています。

第19回甲州市えんざん桃源郷ひな飾りと桃の花まつり」 開幕

2月11日(木・祝)、甲州市の春を告げるイベント「第19回甲州市えんざん桃源郷ひな飾りと桃の花まつり」が開幕いたしました。4月18日までの開催となります。主会場である甘草屋敷では、江戸時代のひな人形「享保雛」から現代までのひな人形数百体と豪華な御殿飾り、吊るし飾り等が展示され、色彩も形状も様々なひな飾りを楽しむことができます。今年は密を避けるため、主屋の他に小屋にもひな飾りを展示しています。

また、甘草屋敷の他、恵林寺「武田信玄公宝物館」、宮光園、協賛として市内9カ所でもひな飾りが展示されています。ぜひこの機会にご覧ください。



文化財防火デー

文化財防火デーは、昭和24年1月26日に世界最古の木造建築物である法隆寺の金堂が炎上し、壁画が焼損したことから、文化財防災推進のため、毎年1月26日を「文化財防火デー」と定め文化財所有者の協力のもと消火訓練等を行っているものです。

今年、甲州市では1月24日(日)に勝沼町休息の休息山立正寺で防火訓練を実施しました。訓練では、落葉の焼却中に火が立木へ燃え移ったことによる拝殿への延焼危険大を想定し、住職及び奥様による通報、初期消火、重要物品の搬出、そして消防団・消防署による放水訓練を実施しました。

また、勝沼町勝沼の大善寺では、1月31日(日)に、地区住民や地元消防団により防火訓練を行いました。毎年、文化財防火デーにあわせて行っています。

最近では、ノートルダム大聖堂や首里城などの世界遺産で火災が発生しています。日頃から防災意識を高め、準備と訓練を行うことが大切です。



■ 休息山立正寺



■ 大善寺